

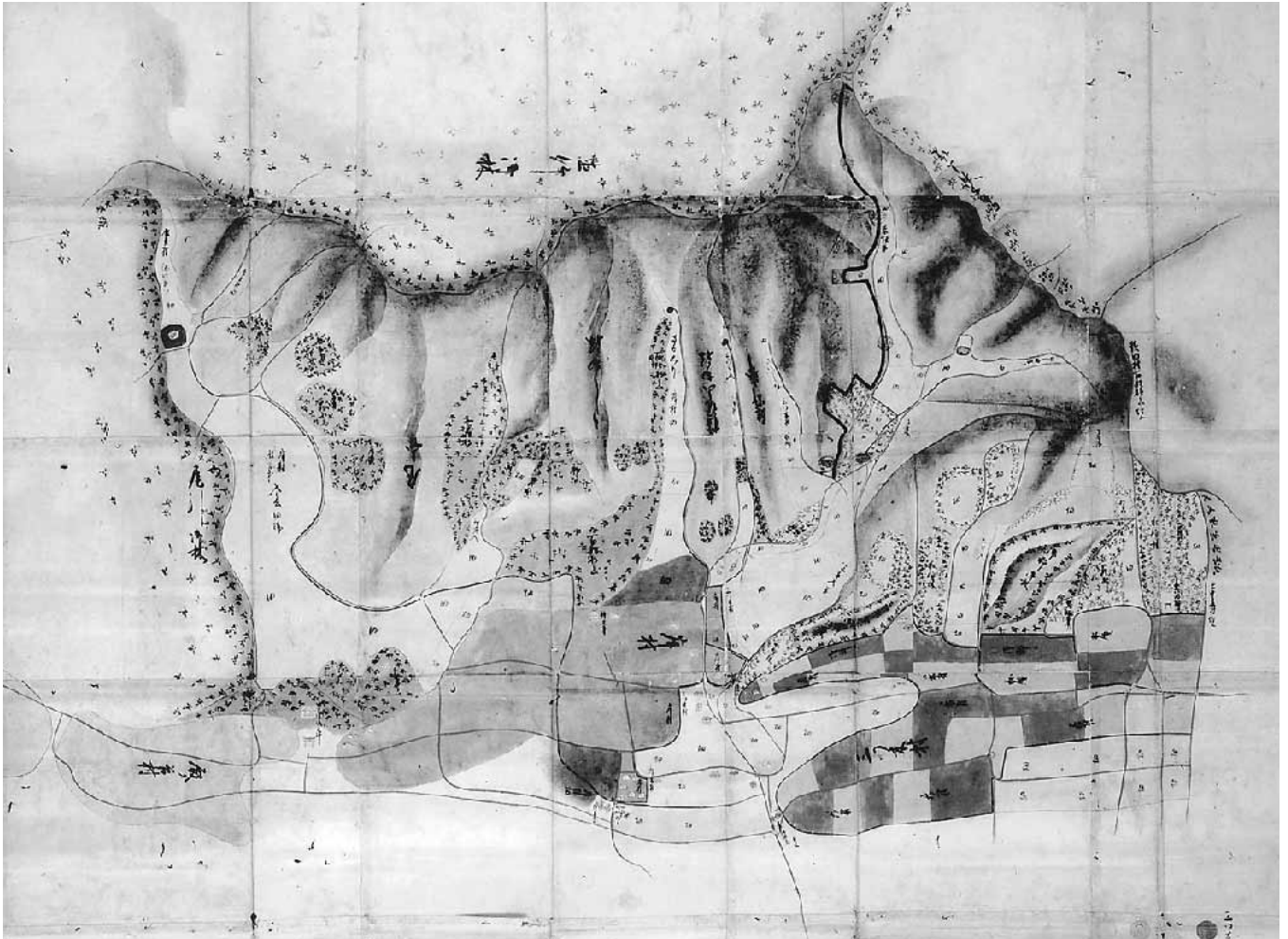
資料館だより

第40号

平成16年(2004)

3月25日

編集・発行 市立歴史民俗資料館 〒208-0004 東京都武蔵村山市本町5-21-1 TEL 042(560)6620
ホームページアドレス <http://www.city.musashimurayama.tokyo.jp/shiryokan.html>



三ツ木村裁許^{さいきよ}絵図(部分) <享保11年(1726)5月・増尾音治氏所蔵>

企画展「市内に残る江戸時代の村絵図」から

平成15年が江戸開府400年の節目にあたることから、企画展「市内に残る江戸時代の村絵図」を平成15年10月から平成16年1月にかけて当館及び市役所1階ロビーにて開催しました。江戸時代の市域に存在した中藤・横田・三ツ木・岸の4か村の絵図に色鮮やかに描かれた集落や田畑などの様子を紹介しながら、各村の成り立

ちや村人の暮らしなどについて解説しました。

表紙の裁許絵図は、当時、三ツ木村と石畑・岸・^{まぐさば}殿ヶ谷の3か村との間で秣場入会地をめぐる争いが起こり、幕府評定所がこれを裁断して境界線を墨引きし、後々の証拠とするよう描かれたもので、縦1.7m横2.2mもあるとても大きな絵図です。

木地屋関連文書とゆかりの地・永源寺町

福西 大輔

木地屋（木地師）別名轆轤屋とは、轆轤を使って木を加工しお椀などを作る職人のことです。武蔵村山には轆轤屋という屋号を持つ家が馬場・谷ツ地区に残っています。このうち、谷ツ地区の轆轤屋には木地屋関連文書が残っており、現在は資料館に展示されています。その家では、1930年代まで二代にわたって轆轤で木鉢や番傘のロクロ（傘の開閉部分）を作っていました。木地屋関連文書は、朱雀天皇・正親町天皇の綸旨及び織田信長・豊臣秀吉の免許状が4通（写し）、明治2年の人別送り状1通の計5通からなります。さきの4通は木地屋集団が自己の立場・主張を有利にするために自ら作成した文書で、いわゆる偽文書です。時の有力者の名をかたり、諸役の免除や山野への自由な立ち入りなどを目的に作られました。一方の人別送り状とは、江戸時代の農民がある村から他村に籍を移す際に村役人が発行した文書で、近江の木地職支配所八左衛門から中藤村（現武蔵村山市の一部）の名主源蔵宛てに送られたものです。これらの文書は菊及び桐の御紋のある公文所御用と書かれた桐の箱に収められていました。書面には「近江国愛知郡 小椋大臣実秀[◎] 筒井公文所」と菱形朱印が押されており、各地で見られる蛭谷派のものと同様の形式をしていることから、蛭谷で作成された文書だと考えられます。蛭谷派とは滋賀県永源寺町蛭谷にある筒井八幡社などを根源地とする集団です。

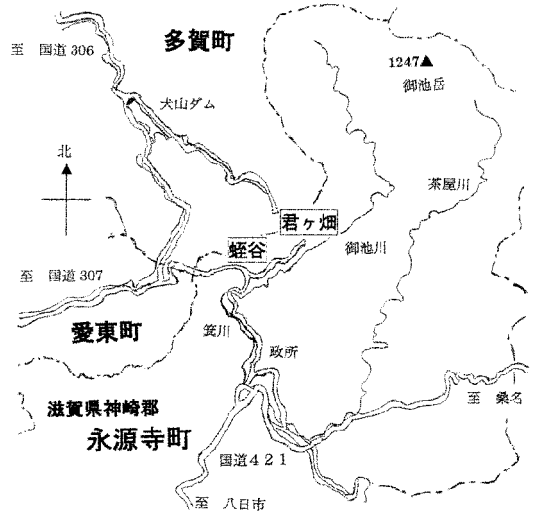


蛭谷の筒井八幡社

この蛭谷派とともに知られているのが同じ永源寺町君ヶ畑の大皇器地祖神社などを根源地とする君ヶ畑派です。蛭谷・君ヶ畑の両神社は、惟喬親王（844～97年）を木地屋の轆轤技術を生み

出した職祖として祀っています。また、江戸期を中心に全国の木地屋を氏子として登録した氏子狩（駈）帳が残されていますが、なぜか中藤村の記載は見当たりません。しかし、人別送り状があることから当時中藤村にいた木地屋が数年間は永源寺町に住んでいたと思われます。

次に、木地屋ゆかりの地・滋賀県永源寺町について、同町君ヶ畑在住の小椋昭二氏（昭和26年生）の話をもとに紹介します（平成14年5



月5日現地調査)。永源寺町は滋賀県の東部、鈴鹿山脈の西端に位置し、蛭谷・君ヶ畑は町域を流れる御池川沿いの谷間にあります。君ヶ畑にいた木地屋は江戸末期にはいなくなりました。昭二氏は製材業の傍ら独学で木地を作っていました。昭二氏は平成7年に愛知県の轆轤師の所に行き、技術を習得してきたそうです。現在、永源寺町には木地屋が昭二氏を含め6、7人おり、どの方も一代目です。昭二氏は自分の仕事を木地屋とはいわず、轆轤屋といっています。岐阜県のトチ・ケヤキを購入して、4年間乾燥させ、電動式轆轤を使って結婚式の引出物用のお盆や



小椋昭二氏の木地製作風景

菓子皿などを作成しています。昭二氏の家では惟喬親王に従った家来の小椋実秀が祖先と伝え

られていることから、惟喬親王とその家来達を描いた掛軸を飾り、職祖として信仰しています。昭二氏はこの地で生まれ、16歳の時に祭りの役である若衆となり、現在は大皇器地神社の参拝者の世話係をしています。若衆は16歳から30歳ぐらいまでの間務め、18歳の時には元服と称して区長や社寺総代の家に挨拶に行きます。この神社では、4月3日と9月11日に大祭を行ない、山海のものをそれぞれ3つずつ供え、区長



君ヶ畑の大皇器地神社

と社寺総代は羽織袴で社守は白狩衣で、若衆は昔の木地屋の格好で参拝して近隣の神主が来て祝詞をあげます。9月の祭りには、社務所（かつては社守の家）で若衆頭が鮎寿司を切り分け供えます。社守は1年交代で、主として月2回行なう月参りなどの行事が仕事となります。大皇器地神社には神主がないため、惟喬親王ゆかりの金龍寺（高松御所）を管理する永源寺が御札を刷っています。昭二氏は、地域の氏子、近隣の元木地屋や万年筆職人、惟喬親王の家来に小椋姓がいたことにちなんで小椋姓の人々などに御札を送る仕事もしています。

他方、蛭谷の筒井八幡社では5月5日に大祭が行なわれ、1年交代で当番を行ない、近隣の神主が祝詞を上げ若者は祭りの世話係をします。神饌は山海のものやちまきを供えます。以前は大祭の時には旗などを持ち神社からお旅所まで行列を作りました。

以上みてきたような木地屋ゆかりの地・永源寺町とのつながりがわかる木地屋関連文書が残っているのは、管見の及ぶ限りでは都内では武蔵村山が唯一であり、木地屋の分布を知る上で重要です。また、中世・近世を通じて木地屋は木材を求め全国の山野を漂泊していましたが、明治初期の徴兵制度や戸籍法の実施などに伴い、こうした生活が否定されました。橋本鉄男氏によれば、その時期、全国の木地屋から君ヶ

畑・蛭谷の役場に自分の戸籍に関する問い合わせが後を絶たなかったそうです。こうした観点からも、武蔵村山にある木地屋関連文書の中に、身分証明の意味合いを持つ人別送り状があることは大変興味深いことです。

(武蔵村山市立歴史民俗資料館嘱託学芸員)



関連文書が納めされていた桐箱



明治2年の人別送り状



織田信長免許状（家臣丹羽長秀署名）

（謝辞）小椋昭二氏には調査に協力を頂き厚く御礼申し上げます。

<参考文献>

長沢利明「東京の木地師」（『西郊民俗』157号 西郊談話会 1996）

橋本鉄男『ものと人間の文化31 ろくろ』（法政大学出版局 1979）

山田義高「資料紹介「ろくろ屋」渡辺家所蔵の木地屋関連文書」（『資料館だより』第24号 武蔵村山市立歴史民俗資料館 1996）

寄贈資料（平成15年度）

※受領順（15年4月～16年3月）

	寄贈者（敬称略）	住 所	寄 贈 資 料 名	数 量
1	石川伊三郎	三ツ木在住	弓破魔、五月人形（内飾り）	各1点
2	山崎 敏旦	三ツ木在住	こいのぼり用竿（飾り部分等含む）	一式
3	高橋 仲三	中央在住	芋切機 ※昭和10年代	1台
4	内野 裕旦	中藤在住	茶壺、手斧、鳶口、槍	各1点
5	榎本 光好	本町在住	村山大島紬関連資料（糸、小杵等）	一式
6	峯岸 一満	中藤在住	弓破魔（ガラスケース入り）	1点
7	式守 操	残堀在住	日本分県地図（1952年版）	1冊

※ご寄贈ありがとうございました

平成16年度の主な事業（予定）

※実施内容及び時期等は変更となる場合があります（詳細は市報等でお知らせします）

	事 業 内 容	時期（期間）	場 所
1	企画展「武蔵村山の消防団のあゆみ（仮題）」	10～12月	歴史民俗資料館
2	ミニミニ企画展（収蔵資料の中からテーマ別に展示）	5月以降順次	歴史民俗資料館
3	夏休みミニ展示「狭山丘陵の植物と生き物たち（仮題）」	7～8月	歴史民俗資料館
4	歴史講座、自然講座等（内容等は未定）	10月以降順次	教育センターほか
5	体験教室（化石の型取り、手打ちうどんづくり等）	7月以降順次	里山体験施設ほか

<編集後記>

◆去る3月12日、ついにホームページを開設しました。資料館の行事案内、歴史散策コースや指定文化財の紹介、さらに学校教育の場でも活用してもらうよう「来て・見て・学ぼう」のコーナーなどもあります。今後さらに充実させていきますのでアクセスしてください。

◆「資料館だより」への投稿をお待ちしています。掲載する内容は武蔵村山の自然・歴史・民俗に関する調査研究や資料紹介などで、紙面による字数制限等は次のとおりです。

- ・1頁の場合 1600字程度（タイトル、写真、図表を含む）
- ・2頁の場合 1600～3600字程度（タイトル、写真、図表を含む）

文字サイズについては、紙面の構成上により10から12ポイントの範囲で調整します。

原稿の採否については資料館で決定し、内容や字数等については協議のうえ修正をお願いする場合がありますので、あらかじめご了承ください。